



無線歴史展示室

～無線通信の歴史を感じよう～

広報よこすか10月号掲載記念

特別開館

2022年10月 毎水曜・金曜日

午後1時30分-4時00分



無線通信の歴史ならびに技術の進化を、横須賀リサーチパーク(YRP)内の企業の皆様からお預かりした貴重な展示品でご覧いただけます。

ぜひ日本の無線通信誕生における先人の足跡と、横須賀が果たした貢献の歴史を、ご覧ください。

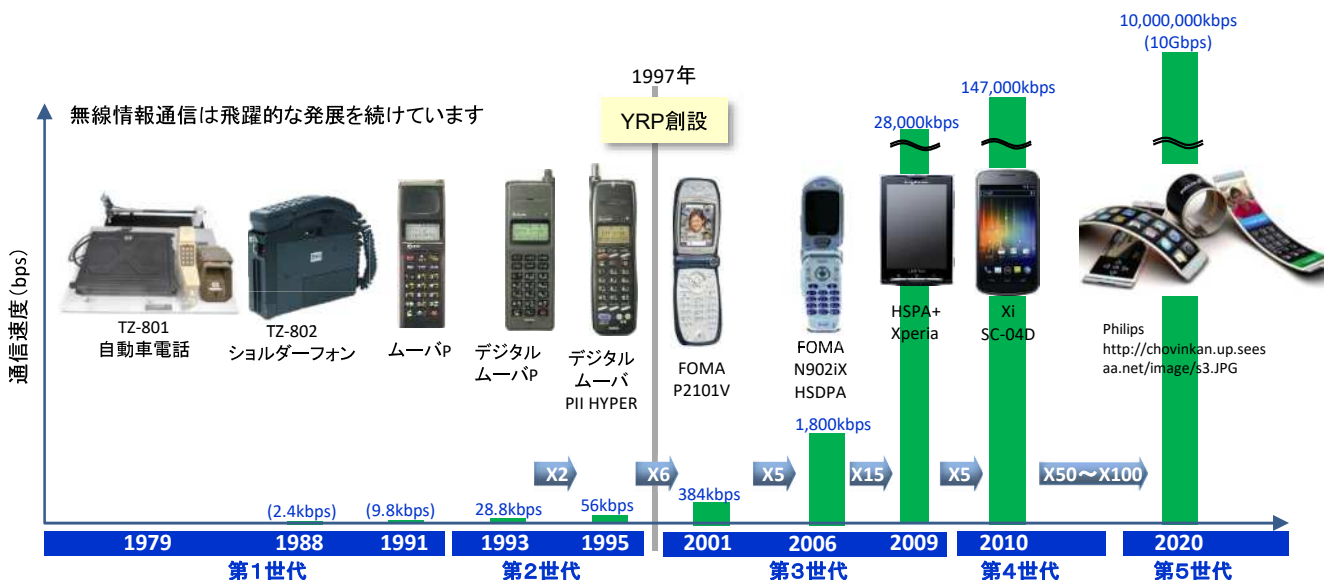
2022年7月、開設からほぼ9年目として、拡張改装しリニューアルオープンいたしました。ご再訪もよろこんでお待ちいたします。



横須賀と無線通信の歴史 明治から大正



無線機器実物による歴史散歩 昭和から令和



● ご見学方法 ●

右記記載の開館日・開館時間にご自由にご来館ください。
(通常は要事前予約で10名様以上のグループでのご案内となります)

入場料: 無料
特別開館日: 2022年10月中の水曜日と金曜日
開館時間: 午後1時30分～午後4時00分

(株)横須賀テレコムリサーチパーク/無線歴史展示室

神奈川県横須賀市光の丘3-4 YRPセンター1番館1階

TEL: 046(847)5000 E-mail: info@yrp.co.jp https://yrp.co.jp/exhibitionhall/

1. 電気通信の到来

1853年(嘉永6年)

アメリカのペリー艦隊が日本に初めて上陸しました。
横須賀(当時は浦賀)の久里浜です。



マシュー・ペリー
1794-1858



横須賀自然・人文博物館所蔵 Heine画

翌1854年、再来したペリーは、数々の献上品を持参、その中に電信機がありました。2台の電信機は、朝廷と幕府に献上するものでしたが、日本人は電信機を理解できなかったため、ペリーは横浜近郊で電信の実験を行いました。通信の速度に幕臣たちは驚いたとあります。



通信博物館蔵

2. 無線通信が誕生

1895年ごろ

日本は差し迫るロシアとの戦争に備え、イギリスに大型軍艦を発注しました。多くの日本人がイギリスを訪れていた最中、ロンドンでマルコーニが無線通信の実験に成功しました。



英国ビッカーズ社が造船した軍艦三笠



マルコーニと
無線電信機

3. 日本、無線通信の自力開発を決意

1897年

日本は無線通信技術の購入交渉を行いました。法外な価格を要求され、日本は自力で無線通信技術を開発することを決断。逓信省の研究機関である電気試験所の松代松之助技士に命じ開発に着手しました。松代技師は乏しい資料から試作品の製作にこぎつけ、**6か月で実験に成功**しました。



電気試験所
松代松之助技士



無線電信の
実験装置

4. 横須賀が日本初の無線電信機を完成

1903年

三六式無線電信機の誕生(三六は明治36年の意味)

当時日本最高の工業技術力を誇っていた横須賀に無線技術者が集められ、無線電信機は数々の改良が施され、1903年12月、約500kmを通信距離とする「**三六式無線電信機**」が完成しました。すべての軍艦に無線電信機が搭載され、ロシア・バルチック艦隊を早期に発見、「**敵艦見ゆ**」の無電が旗艦三笠に伝わり、東郷平八郎元帥の戦術によりバルチック艦隊を壊滅に追い込みました。



三六式無線電信機

5. 真空管の開発とテレビ放送のはじまり

1953年

横須賀の真空管が日本のテレビジョン放送を実現



西欧で発明された真空管は、電子信号の発生や増幅ができる初めてのデバイスでした。日本も早期に開発が進められました。**横須賀で研究された真空管は高い性能を実現した**ことにより、日本のテレビ放送が実現しました。

6. 横須賀に衛星通信の研究所が誕生

1972年

NTT横須賀通信研究所の誕生



宇宙にあげた人工衛星との確実な通信を実現するために、横須賀にNTTの研究所が設立されました。**丘陵が囲む独特の地形が、他地域からの不要な電波を遮断するための重要な立地条件**でした。

7. 横須賀に携帯研究のリサーチパークが誕生

1997年

YRPの誕生



当時、携帯電話は国際的にばらばらな方式となり、国際通信連盟は規格統一の勧告を出しました。**日本は国を挙げて規格実現に努めるため、横須賀リサーチパークを建設**し、国内の無線研究者を集めました。その成果により2001年、世界のどこでも使える携帯電話(**第3世代**)が実現しました。